		ī			注息書きを参照のこと
No	講座名	副題	日程 日数 <i>募</i> 集人数	講義内容の概要(項目)	受講対象者
1	畜産行政 (総合)	畜産行政推進 の基礎知識の ために	5/27(火) ~ 5/29(木) 3日間 40名	◇ 畜産行政をめぐる情勢 ◇ 生産段階での畜産物の安全確保 ◇ 流通段階での畜産物の安全確保・輸出 ◇ アニマルウェルフェアの現状 ◇ J G A P の状況 ◇ 飼料をめぐる情勢 ◇ 畜産クラスター事業 ◇ 会計検査制度 ◇ マスコミから見た畜産行政 ◇ 課題討論	各機関職員で当該関連分野(行政職務)に配属されて原則5年程度の者、農業に従事する者
2	新任畜産技術 職員(1) (基礎)	畜産技術者と しての基礎知 識のために	6/3(火) ~ 6/5(金) 3日間 40名	◇畜産各分野の基礎知識《▽酪農▽肉用 牛▽養豚・養鶏・特用畜産▽飼料▽畜産 環境保全▽家畜衛生▽アニマルウェル フェア▽牛トレーサビリティ制度 等》 ◇畜産関係主要法令 ◇課題討論 ◇現地研修	各機関職員で畜産職 域に配属されて原則 3年以内の者、農業 に従事する者
3	肉用牛生産技 術指導者養成 (1) (専門)	効率的生産技 術の指導者育 成確保のため に	6/9(月) ~ 6/13(金) 5日間 20名	◇肉用牛をめぐる情勢 ◇受精卵移植・雌雄判別技術 ◇哺乳子牛の生理と飼養管理 ◇繁殖牛の管理技術 ◇肉質評価技術 ◇肉用牛改良と登録の実務 ◇肉用牛審査実習 ◇肉用牛の経営管理	各機関職員で当該関連技術の指導を担当を担当を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を対した。 を1年の基本のとは、 を1年のあるとは、 を1年経営に従事する者
4	放牧 (専門)	放牧の推進の ために	6/24(火) ~ 6/27(金) 4日間 20名	◇放牧をめぐる情勢 ◇経営視点から見た放牧技術 ◇放牧牛の衛生管理 ◇鳥獣害対策 ◇放牧の推進 ◇放牧の実務 ◇高張力線牧柵・簡易電気牧柵の設置実 習 ◇放牧管理技術 ◇放牧草地の更新 ◇総合討論	各機関職員で当該分 野に配属されて原則 5年以内の者、農業 に従事する者
5	新任畜産技術 職員(2) (基礎)	畜産技術者と しての基礎知 識のために	7/1(火) ~ 7/3(木) 3日間 40名	◇畜産各分野の基礎知識《▽酪農▽肉用 牛▽養豚・養鶏・特用畜産▽飼料▽畜産 環境保全▽家畜衛生▽アニマルウェル フェア▽牛トレーサビリティ制度 等》 ◇畜産関係主要法令 ◇課題討論 ◇現地研修	各機関職員で畜産職 域に配属されて原則 3年以内の者、農業 に従事する者
6	畜産環境保全 (耕畜連携、 堆肥利用促 進) (専門)	堆肥施用コー ディネーター の養成のため に	9/24(水) ~ 9/26(金) 3日間 20名	◇ 畜産環境をめぐる情勢 ◇ 耕畜連携における堆肥利用の経済性と 組織対応 ◇ 肥料の品質の確保等に関する法律 ◇ 家畜ふん堆肥の施用法と肥料原料化 ◇ 野菜作における堆肥施用のポイント ◇ 地域における堆肥の循環利用の促進 ◇ 利用者ニーズを意識した堆肥生産・流通 ② 水田作における堆肥施用の基本と現場 利用 ◇総合討議	各機関職員及び耕種 作物関係団体の職 員、農業に従事する 者

			- T-		汪恵書さを参照のこと I
No	講座名	副題	日程 日数 <i>募</i> 集人数	講義内容の概要(項目)	受講対象者
7	畜産物安全行 政 (総合) 【隔年開催】	畜産物の安全 確保と消費保 の信頼確保 に関する の理解のた めに	9/30(火) ~ 10/3(金) 4日間 40名	◇リスク管理とは ◇リスクコミュニケーションの推進 ◇食品安全委員会におけるリスク評価 ◇畜産物の安全性確保を目指す生産衛生 の推進 ◇人畜共通伝染病の動向とリスク評価 ◇東京食肉市場における食の安全・安心 への取組 ◇安全な食品とは ◇危機管理とは ◇大規模な放射能汚染を踏まえた畜産生 産技術 ◇飼料のリスク管理 ◇牛トレーサビリティ制度 ◇食品の表示について ◇動物用医薬品のリスク管理 ◇よの表示について ◇動物用医薬品のリスク管理 ◇」GAPの状況 ◇生産段階におけるHACCP方式を活用した衛生管理	各機関職員で畜産職 域に配属されて原則 5年以内の者、又は 当該関連分野を担当 する者、農業に従事 する者
8	肉用牛生産技 術指導者養成 (2) (専門)	効率的生産技 術の指導者育 成確保のため に	10/6(月) ~ 10/10(金) 5日間 20名	◇肉用牛をめぐる情勢 ◇受精卵移植・雌雄判別技術 ◇哺乳子牛の生理と飼養管理 ◇繁殖牛の管理技術 ◇肉質評価技術 ◇肉用牛改良と登録の実務 ◇肉用牛審査実習 ◇肉用牛の経営管理	各機関職員で当該関連技術の指導を担当を担当する分野に配属とこの基本の基本の基本の基本の基本の基本の基本の基本の基本の基本の基本の基本の基本の
9	新任畜産技術 職員(3) (基礎)	畜産技術者と しての基礎知 識のために	10/15(水) ~ 10/17(金) 3日間 40名	◇畜産各分野の基礎知識《▽酪農▽肉用 牛▽養豚・養鶏・特用畜産▽飼料▽畜産 環境保全▽家畜衛生▽アニマルウェル フェア▽牛トレーサビリティ制度 等》 ◇畜産関係主要法令 ◇課題討論 ◇現地研修	各機関職員で畜産職 域に配属されて原則 3年以内の者、農業 に従事する者
10	養豚 (基礎) 【隔年開催】	養豚を取り巻 く諸状況の認 識のために	10/21(火) ~ 10/23(木) 3日間 40名	◇養豚をめぐる情勢 ◇豚の疾病と防疫対策 ◇豚の育種改良とその推進体制 ◇JGAPの状況 ◇豚肉流通の現状と課題 ◇アニマルウェルフェアの現状 ◇養豚経営の現状 ◇豚肉の消費ニーズと動向 ◇養豚場のふん尿処理 ◇豚飼料給与技術(飼料と肉質) ◇課題討論	各機関職員で当該分 野に配属されて原則 5年以内の者、農業 に従事する者
11	新規就農指導 員養成 (基礎)	新規就農を総 合的にサポー トできる指導 者養成のため に	10/28(火) ~ 10/31(金) 4日間 20名	◇畜産をめぐる情勢◇新規就農及び担い手対策◇家畜衛生の現状◇就農のための資金計画◇農業経営・畜産経営の特徴とその経営指導手法◇子牛の衛生管理技術および飼養管理◇総合討論◇現地実習	各機関職員で当該部 門の指導に携わる初 任指導職員、農業に 従事する者

No	講座名	副題	日程 日数 募集人数	講義内容の概要(項目)	受講対象者
12	酪農 (基礎)	酪農を取り巻 く諸状況の認 識のために	11/10(月) ~ 11/14(金) 5日間 40名	◇牛乳・乳製品及び貿易交渉の情勢 ◇HACCP・JGAP認証 ◇乳用牛のベストパフォーマンス実現の ために ◇自動搾乳システムでの乳牛行動に適し た飼養管理および施設計画 ◇乳牛改良の動向 ◇牛群検定と農家指導 ◇酪農へルパーを巡る情勢 ◇自給飼料生産用機械の最新動向 ◇疾病予防対策 ◇アニマルウェルフェアの現状 ◇牛から学ぶ牛の管理 ◇課題討論 ◇現地研修	各機関職員で、当該 分野に配属されて原 則5年以内の者、農 業に従事する者
13	畜産新技術 (総合)	繁殖技術の向 上及び畜産関 係新技術に係 る諸状況の認 識のために	11/18(火) ~ 11/21(金) 4日間 40名	◇新技術の動向 ◇スマート農業推進 ◇搾乳ロボット情報 ◇ゲノム編集と倫理 ◇ベンチマーキングによる経営分析 ◇生産性向上に向けた疾病予防と飼養管 理の新技術 ◇DNA解析を利用した育種改良 ◇受精卵移植・雌雄判別の現状と課題 ◇精密分娩・繁殖管理 ◇家畜排せつ物の栄養生理学的制御技術 ◇産業動物のアニマルウェルフェアの現 状と課題 ◇現地研修 等	各機関職員で当該技 術分野に配属された 者又は関連業務の経 験のある者、農業に 従事する者
14	流通飼料 (専門)	飼料を取り巻 く諸状況の認 識及の飼料化を 推進するため に	11/25(火) ~ 11/28(金) 4日間 40名	◇流通飼料をめぐる現状と課題 ◇飼料の安全確保 ◇エコフィードをめぐる現状と課題 ◇飼料給与と栄養 ◇飼料設計の基本 ◇食品残さ等飼料化技術 ◇高付加価値畜産物の生産と飼料(豚肉) ◇高付加価値畜産物の生産と飼料(養鶏) ◇高付加価値畜産物の生産と飼料(牛肉) ◇食品残さ利用の養豚農場実践事例 ◇給与飼料と家畜への影響 ◇課題討論	各機関職員で当該分 野に配属されて原則 5年以内の者、農業 に従事する者
15	畜産環境保全 (堆肥化処 理、利用技 術) (専門)	畜産環境を取 り巻く諸状況 の認識のため に	12/1(月) ~ 12/5(金) 5日間 40名	◇ 畜産環境をめぐる情勢 ◇ 肥料の品質の確保等に関する法律 ◇ 堆肥化処理の原理と発酵に必要な条件 ◇ 各種堆肥化施設・撹拌移送機 ◇ 堆肥化処理施設の設計・維持管理数 値・ランニングコストの計算法及び演習 ◇ 堆肥の利用促進・耕畜連携 ◇ 堆肥の適正使用量算出法	各機関職員、農業に 従事する者

	ı	I			注息書さを梦照のこと
No	講座名	副題	日程 日数 募集人数	講義内容の概要(項目)	受講対象者
16	国産飼料(専門)	国産飼料を取 り巻く諸状況 の認識のため に	12/9(火) ~ 12/12(金) 4日間 40名	◇公共牧場の運営改善技術 ◇ TMRセンターの現状・課題・展開 ◇自給飼料の加工調整技術 ◇飼料作物(牧草、国産濃厚飼料、飼料 用とうもろこし、飼料用麦、稲WCS・ 飼料用米)の栽培技術 ◇飼料作物の品種 ◇飼料生産関係の農業機械 ◇飼料をめぐる情勢 ◇総合討論	各機関職員及び耕種 作物関係団体職員で 当該分野に配属され て原則5年以内の 者、農業に従事する 者
17	肉用牛(基礎)	肉用牛を取り 巻く諸状況の 認識のために	12/16(火) ~ 12/19(金) 4日間 40名	◇肉用牛改良の情勢 ◇アニマルウェルフェアの現状 ◇生疾病対策と農場HACCP ◇一貫経営 ◇肉用牛のブランド化 ◇和牛の肉質と輸出拡大 ◇和牛遺伝資源と改良 ◇肉用牛育種改良 ◇子牛の健康と生産性向上 ◇肉用牛農場におけるGAPの取組 ◇肉用牛の放牧管理 ◇牛肉流通 ◇課題討論	各機関職員で当該分 野に配属されて原則 5年以内の者、農業 に従事する者
18	畜産環境保全 (臭気対策技 術) (専門) 【隔年開催】	畜産環境を取 り巻く諸状況 の認識のため に	1/13(火) ~ 1/15(木) 3日間 24名	◇ 畜産環境をめぐる情勢 ◇ 悪臭防止法について ◇ 畜産における臭気防止の基礎 ◇ 設備・装置による脱臭技術の基本と各 種脱臭法 ◇ 畜産経営における悪臭対策の基本と苦 情対応 ◇ 臭気に関する各種分析・測定技術 ◇ 養豚場における悪臭対策の取組事例	各機関職員、農業に 従事する者
19	畜産統計処理 (基礎)	畜産統計処理 の修得のため に	1/26(月) ~ 1/30(金) 5日間 40名	◇基礎統計学 ◇パソコンによる統計処理・演習問題 等	各機関車が 連が が関い を を を を を が は に り い で ま り い て 計 り い る い る い が い れ る い い い い い い い い い い い い い い い い い
20	食肉流通 (専門)	食肉流通を取 り巻く諸状況 の認識のため に	2/3(火) ~ 2/6(金) 4日間 40名	◇基礎知識(食肉流通・表示・食肉加工・畜産副産物・食鳥流通) ◇食肉処理施設をめぐる情勢 ◇食肉流通と関係法規 ◇食肉の格付け ◇食肉品質評価 ◇食肉衛生(学・行政)概論 ◇衛生管理(生産段階・食肉センター) ◇牛肉輸出の取組	各機関職員又は食肉 流通の安全・衛生に 係る指導を行う食肉 の処理・加工・流当 事業者の職員でおいる 分野に配属されて 則5年以内の者、 業に従事する者

※末尾の注意書きを参照のこと

				7.0.148.01	上心目してシボジュー
No	講座名	副題	日程 日数 募集人数	講義内容の概要(項目)	受講対象者
21	畜産環境保全 (畜舎汚水処 理技術) (専門)	畜産環境を取 り巻く諸状況 の認識のため に	2/16(月) ~ 2/20(金) 5日間 40名	◇水環境行政の動向 ◇畜産環境をめぐる情勢 ◇汚水処理技術の基本 ◇活性汚泥法・汚水処理技術の原理 ◇汚水処理施設の設計・審査・維持管理 に関する計算・演習 ◇脱窒・硝化処理活性汚泥法・膜分離活性 汚泥法	各機関職員、農業に 従事する者

(注)

- ◇「受講対象者」欄において、「各機関職員」とは「国、地方公共団体、畜産関係団体又は農協等 生産者団体等職員」をいう
- ◇隔年開催講座について
 - ・隔年開催は以下7講座…①畜産物安全行政 ②畜産環境保全(臭気対策) ③畜産経営 ④統計遺伝育種学 ⑤養豚 ⑥養鶏 ⑦養蜂 ・令和7年度以下3講座を予定…①畜産物安全行政 ②畜産環境保全(臭気対策) ⑤養豚
- ◇「講義内容の概要(項目)」欄における下線部の講義は、農業従事者が出席することに適した内容。 (特定の講義のみの聴講申込みも可)